基礎生物学委員会・応用生物学委員会・地球惑星科学委員会合同
自然史・古生物学分科会（第２１期・第１回）議事要旨

日時：平成 21 年 1 月 13 日（火）10：00～12：00
場所：日本学術会議　５－A（１）会議室
出席：（五十音順、敬称略）：加藤（真）、加藤（雅）、北里、斎藤、白山、西田、長谷川、馬場、林、真鍋、馬渡、鷲谷、小川（事務局）
欠席：大路、戸部

議題：

（１）　委員長に西田治文氏、副委員長に白山義久氏、幹事に真鍋真氏を選出した。

（２）　第 20 期での代表的な成果として、対外報告書「文化の核となる自然系博物館の確立を目指して」(2008 年 1 月 21 日)の発表、シンポジウム「生命の息吹と地球の鼓動を聞く～今、フィールドサイエンスが面白い～」（2007 年 11 月 25 日）の実施が報告された。今期は、自然史、古生物学の発展のために、博物館だけでなく大学などの役割も含めた議論や、自然史学会連合、分類学連合などの連合体との連携の強化や、各学協会からの意見を集約するような機能が求められている。国連の国際生物多様性年や COP10 の日本開催が 2010 年に予定されていることから、この機会に自然史、古生物学の存在意義をアピールするような活動を行うべきであるという意見が出された。まずは 2010 年の記念年の存在を広くアピールするようなシンポジウムを学会連合体と共催で、2009 年の早い時期に実施するように準備を開始する。

（３）　「日本の展望」について鷲谷いづみ委員より概要説明があった。当分科会からの意見を鷲谷委員に 1 月末日までに提出するために、西田委員長が近日中に素案を作成し、全委員にメールで回覧し意見を求めることとした。素案作りにおいて、情報化への対応だけでなく、そのもととなる標本の重要性を、社会に求められるという意味でのニーズでなく、これからの社会が求めるべきニーズを特定するように注意すべきであることなどが指摘された。

（４）　2010 年の国際多様性年に向けて、各界各所で計画されているイベントの内容を把握するため、委員から情報提供を受け、当分科会が実施する行事の内容、時期について考慮することにした。また、各委員の主要所属学会を把握して、当委員会と学協会との連絡状況を把握することとした。いずれの情報もメールで真鍋幹事が集めることとした。

以上